

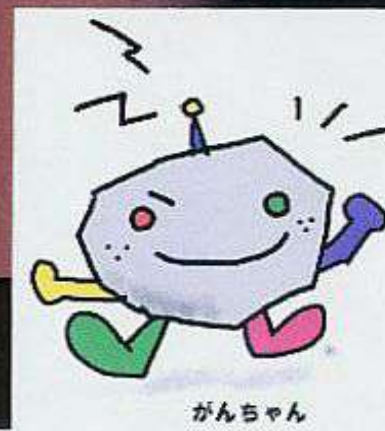
# 報道機関と連携した 岩手山の噴火危機対応

「岩手山の火山活動に関する検討会」座長  
「岩手山火山災害対策検討委員会」委員長  
「INS岩手山火山防災検討会」代表幹事

齋藤 徳美

# 新しい地域づくりのキーワード

- ひもじくなく
- 安全に
- 心安らかに





# 自然災害

発生は防げないが、減災は可能

	発生制御	事前予測	災害防止
風水害	×	○	△
地震	×	×	△
津波	×	○	△
火山噴火	×	△	△



# 噴火災害の特徴～その多様性

★火口はどこになるか

★いつ噴火するか

★噴火災害の種類が多様性

噴石・火山灰・溶岩流・火砕流・火砕サージ

土石流・融雪型火山泥流・山体崩壊

★規模はどの程度か

★いつまで継続するのか











岩手山山頂上空から西岩手をのぞむ  
1998年6月30日撮影 国土交通省岩手工事事務所提供







# 岩手山 忘れたころに活火山

仙台管区気象台は一日、岩手山で九月に火山性の地震と微動が観測されたため、今月から臨時の機動観測を行うと発表した。地震計を三、四の両日設置し、半年程度の観測を予定している。同気象台は「ただちに噴火活動に結びつく状況ではない」としている。

火山性地震は、九月十五日午前零時十九分から同一時五分の間に東北大地震予知・噴火予知観測センターが、松川温泉近くに設置している地震計で観測した。震源が深さ約八キロとごく浅い地震を記録、その後も断続的に微動が続いた。

東北大の予知観測センターは、昭和五十六年から岩手山に地震観測施設を設置して観測を続けているが、

## 9月15日 火山性地震と微動

火山性の地震と微動を観測したのは初めて。

地震計は滝沢村柳沢地区から北西三キロの地点に設置する。観測データは仙台管区気象台地震津波火山監視センターに送られる。東北大の予知センターと緊密な連絡を取りながら、状況の変化があれば関係機関に情報を提供する。

### 仙台管区気象台

仙台管区気象台の浜田信生技術部長は「すぐに噴火に結びつく緊急のものではないが、火山性微動が増えるような状況になれば観測体制の強化も検討する」と話している。

気象庁は、十九火山で常時観測、四十三火山で一定期間観測を行う機動観測を

## 今月から 地震計を設置、観測

実施している。本県関係では五つの活火山のうち、岩手山、秋田駒ヶ岳、八幡平、栗駒山で機動観測を行っている。

岩手山については、最近では昭和六十二年度、平成五年度に実施し、地震回数

## 「噴火活動に直結しない」

は少なく地震活動は低調との報告が出されている。計画では来年夏に機動観測を実施する予定だったが、火山性微動が観測されたことで時期を早めた。

岩手山は、焼走り溶岩流を流出させた一七一九年（享保四年）の噴火が有名

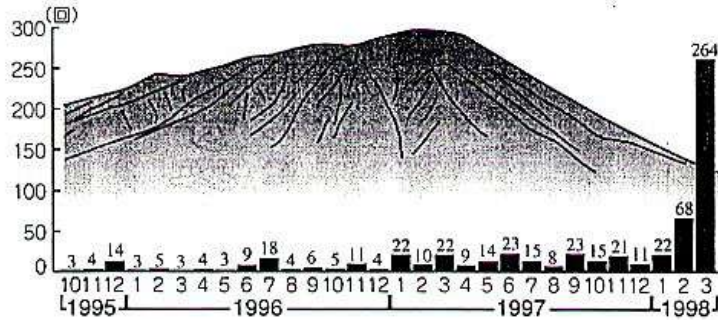
だが、最近では昭和四十七年に中央火口丘の妙高岳から白色噴煙が三百メートル以上上がったことがある。

気象庁によると全国の活火山は八十三に上り、本県関係は岩手山、秋田駒ヶ岳、八幡平、栗駒山、秋田焼山、秋田駒ヶ岳が含まれている。



# 岩手山 火山性地震が多発

岩手山の火山性地震月別回数(1995.8.3.20 13時現在)



## 今月264回、目立つ活動

盛岡地方気象台は二十日、岩手山(二、〇三八m)の火山性地震の回数が急激に増えているとする火山観測情報第一号を発表した。同気象台は「やがて大規模の火山性地震が含まれ、活動が非常に目立つ。現段階で噴火や爆発が起きるとも言えない」とも言えないが、引き続き注視して観測したい」としている。

### 気象台が 表面上変化なし

岩手山の観測は、東北大が昭和五十六年から玄武洞、焼走り、相ノ原に地震計や地殻変動の状況を見る傾斜計、体積ひずみ計、松尾に五十七年から地殻計を設置。気象台は平成七年から馬返しに地震計、八年からプリータロに地震計を置いていた。

今年に入ってから二十日午後一時までに観測された火山性地震は三百五十四回。一月は二十一回、二月六回、三月は百六十四回に達する。特に三月十九日は一日で九十回と観測回数が急激に増加している。岩手山の観測の歴史は

非常に浅いので現在のデータだけで直ちに大きな変化に結びつくかは予知できない。東北大と盛岡市データ交換をしながら引き続き注視して観測していく」と話している。

東北大理学部付属地殻噴火予知研究観測センター・浜口博之教授は「火山性地震は岩石が割れた時に地震の液が起きて発生する。岩手山は三年前くらい前から活動がやや活発化していた。今後、地下のマグマが西向きに表面に出ると予知の可能性がある。現在、地震変動のデータが変化している

ことは重要だ。十九日には新たな観測地点に傾斜計や体積ひずみ計などを置いてきたので、どのような場所でもいつ起きるかなど情報を集めながら今後の変化を観測したい」と話している。

98. 3. 17 90回  
火山観測情報 1号



# 岩手山の火山活動と防災対応の経緯

- 1995, 9, 15 火山性微動観測（活発化のスタート）
- 1998, 4, 29 臨時火山情報第1号（火山性地震285回）
- 1998, 5, 16 I N S岩手山火山防災検討会発足
- 1998, 5, 22 岩手山火山活動対策検討委員会発足
- 1998, 6, 24 臨時火山情報第2号（噴火の可能性指摘）
- 1998, 7, 1 全山で入山規制
- 1998, 7, 8 岩手山火山災害対策検討委員会発足
- 1998, 7, 22 岩手山火山防災マップ（西側水蒸気爆発）公表
- 1998, 10, 8 岩手山の火山活動に関する検討会発足
- 1998, 10, 9 岩手山火山防災マップ（東側・西側全体）公表



- 1998, 10, 18 第1回噴火対策防災訓練
- 1999, 5, 22 黒倉山山頂から強い噴気（西側で表面現象活発化）
- 1998, 6, 8 岩手山緊急対策ガイドライン策定
- 2000, 3, 7 雫石町長山震度4（M3.9）最大規模火山性地震
- 2000, 3, 23 岩手山火山防災ガイドライン策定
- 2000, 4, 27 岩手山火山災害対策図（周辺6市町村）公表
- 2001, 5 緊急通報装置など設置
- 2001, 7, 1 東側4登山ルート夏季入山規制緩和
- 2002, 10, 15 火山噴火予知連見解から水蒸気爆発の文言削除
- 2004, 4 大地獄谷、姥倉山～黒倉山高温域安全対策
- 2004, 7, 1 全山で入山解禁

# 火山活動が活発化すれば

# 噴火の可能性

## 岩手山 臨時情報2号

盛岡地方気象台は二十四日、火山活動が活発化している岩手山(一〇三八〇)について「今後さらに火山活動が活発化した場合には噴火の可能性もある」として臨時火山情報第二号を発表した。二十三日から二十四日にかけて、噴火の前兆となる低周波の火山性地震がはつきりと観測され、マグマなどの流動を示す火山性微動もあった。同気象台は十分な注意を呼び掛けている。

### 低周波地震と火山性微動観測

同気象台によると、低周波の火山性地震を観測したのは、二十三日午後九時二

十分と二十四日午前九時十五分の二回。いずれも震源は岩手山西側で、震源の深さは浅い。体には感じられない無感地震だった。

火山性微動を観測したのは二十四日午前五時十九分から二十一分三〇秒にかけてと、同七時一分から二分三〇秒にかけて二回。発生したのが西側かどうかは不明で、さらに分析している。

低周波の火山性地震と火山性微動が観測されたのは、今年三月に岩手山西側で火山活動が活発になって以来初めて。

火山活動による地盤の傾斜を測るために東北大が三カ所に設置している傾斜計、岩石のひずみを測る体積ひずみ計も引き続き変化している。

二十四日の岩手山の火山性地震発生回数は午後八時現在で七十五回。六月の累計は千三百十回となり、一カ月の回数としてはこれまで最も多い五月(三十一回)を上回った。

岩手山西側の過去の噴火

臨時火山情報は火山活動に異常が生じ、注意が必要

### 県と県警が警戒本部設置

臨時火山情報第二号を受けて、県は二十四日午後四時、県警警戒本部(本部長・吉田敏彦総務部長)を設置するなど、関係機関は対応に追われた。

県警も二十四日午後四時、県警火山災害準備警戒

本部(本部長・境谷潤警備部長)を設置した。五月一日に設置した岩手山地震災警備連絡室(室長・鈴木勲警備部長)を併設し、盛岡を格上げした組織で、盛岡東、盛岡西、山手、三ツ石にもそれぞれの警備警戒本部を設置。合計三百四十人態勢で情報収集や入山客のチェック、夜発活動を始めた。



岩手山の主な震源分布

なときに気象台が発表する。岩手山については四月二十九日以来。



# 岩手山の特徴

## 1、火山周辺での人口密集

盛岡市・八幡平市・雫石町・滝沢村  
人口約40万人

## 2、静穏期が長い

活火山との認識欠如、対策なし

## 3、日本最大級の成層火山 7回の岩屑なだれ発生

西岩手・東岩手新旧二つの噴火形態

# 岩手山の最近の噴火

約70万年の歴史、東岩手約6千年前から

915～1686年 山頂マグマ噴火多数

1686年 山頂マグマ噴火

1732年 山腹噴火(焼け走り溶岩流流出)

1919年 大地獄谷水蒸気爆発



# 火山災害の軽減のために

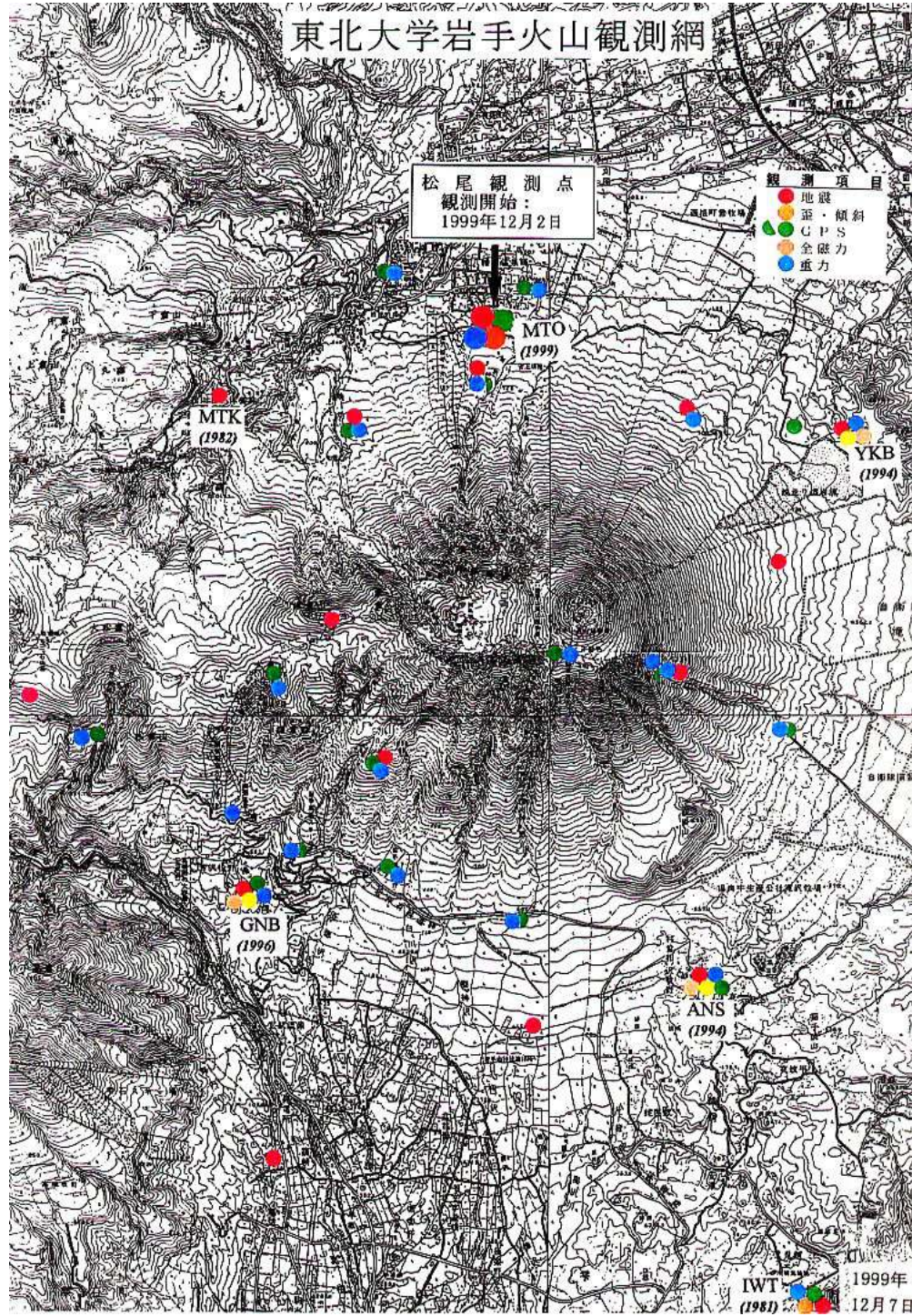
- 1、火山活動の監視
- 2、災害予測地域の想定
- 3、緊急対策の立案と試行

(他の自然災害にも準用可能)

# 東北大学岩手火山観測網

松尾観測点  
観測開始:  
1999年12月2日

- 観測項目
- 地震
  - 歪・傾斜
  - GPS
  - 全磁力
  - 重力



1999年  
12月7日













- 「海老の尻尾」に覆われた冬の過搬型GPS観測装置



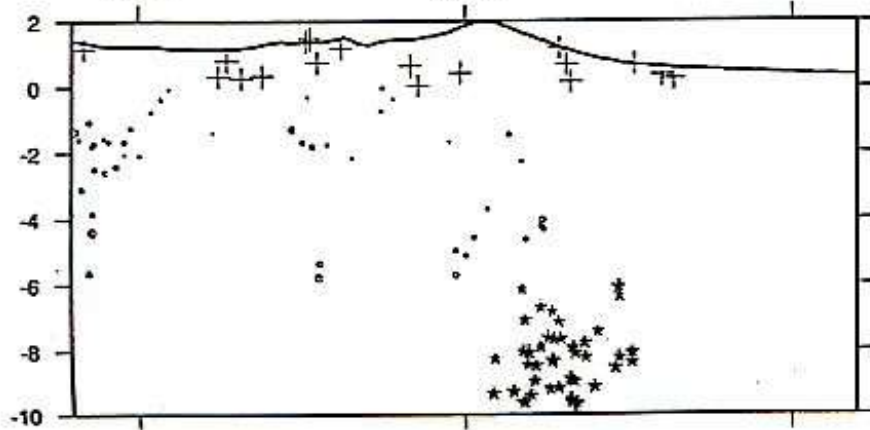
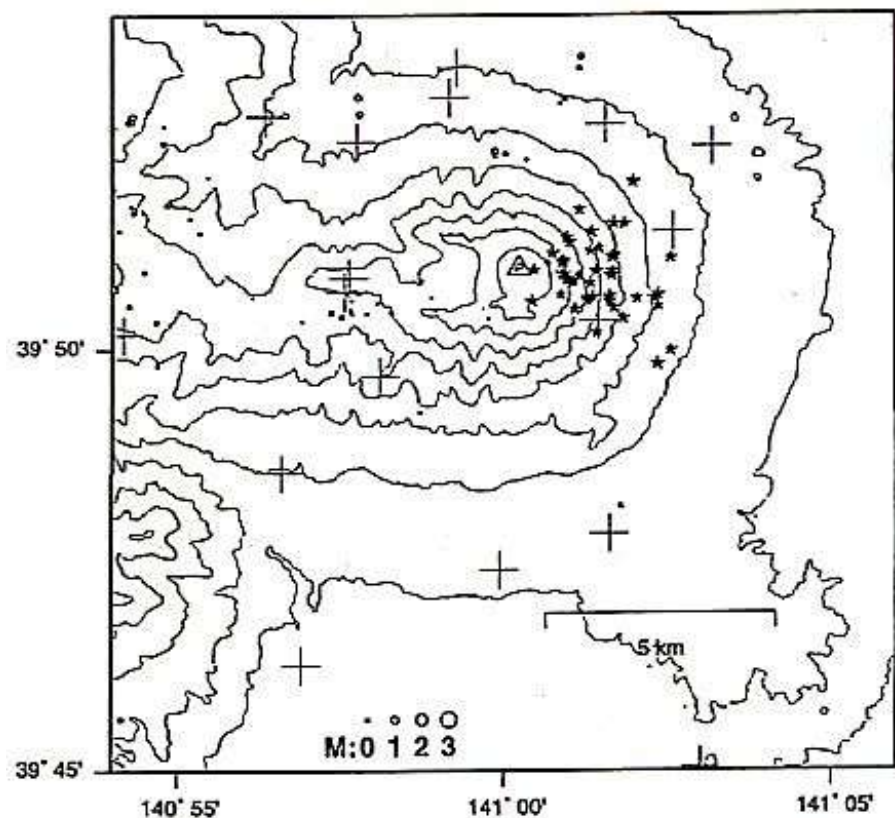






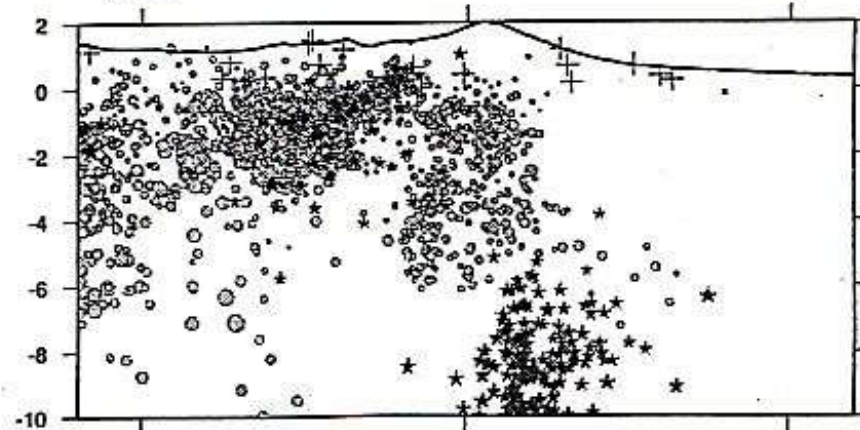
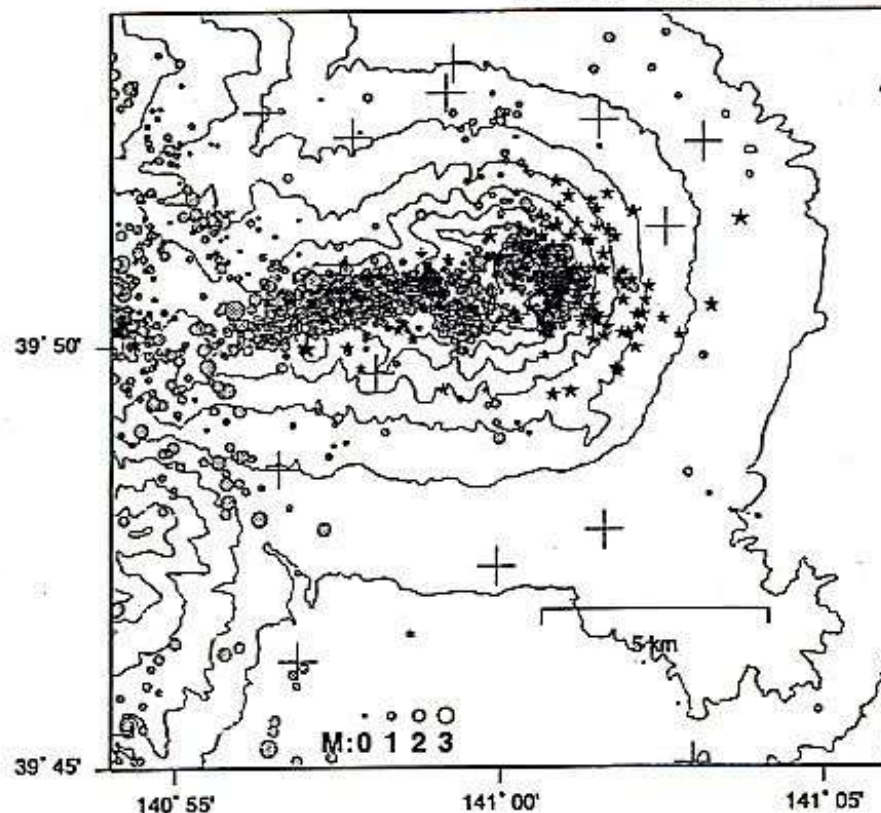
(a) 2002年1月~5月13日

HF: N=48 LF: N=41



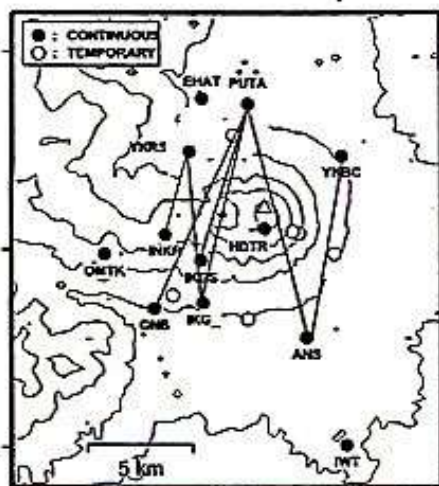
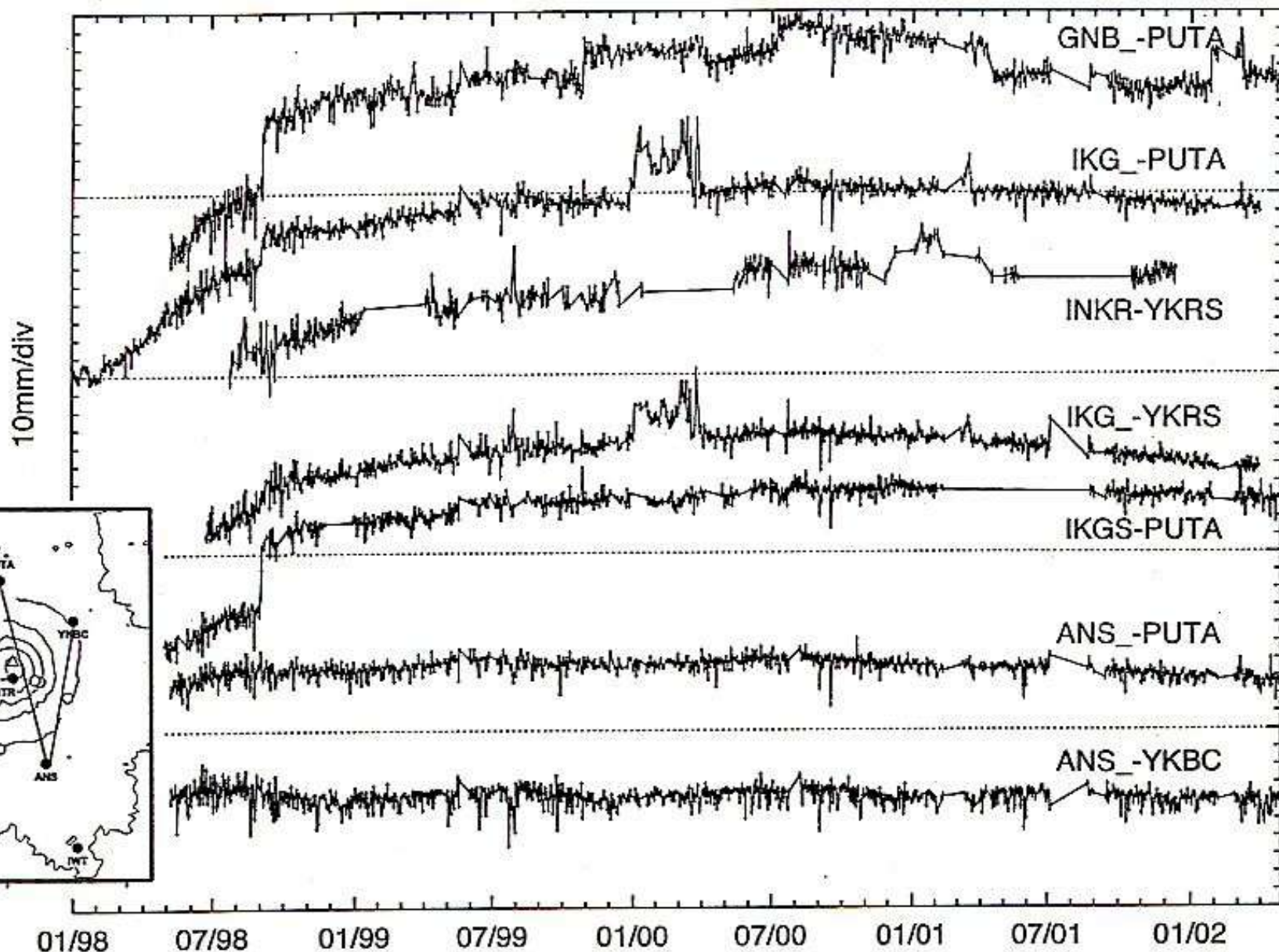
(b) 1998年1月~2001年12月

HF: N=1704 LF: N=215



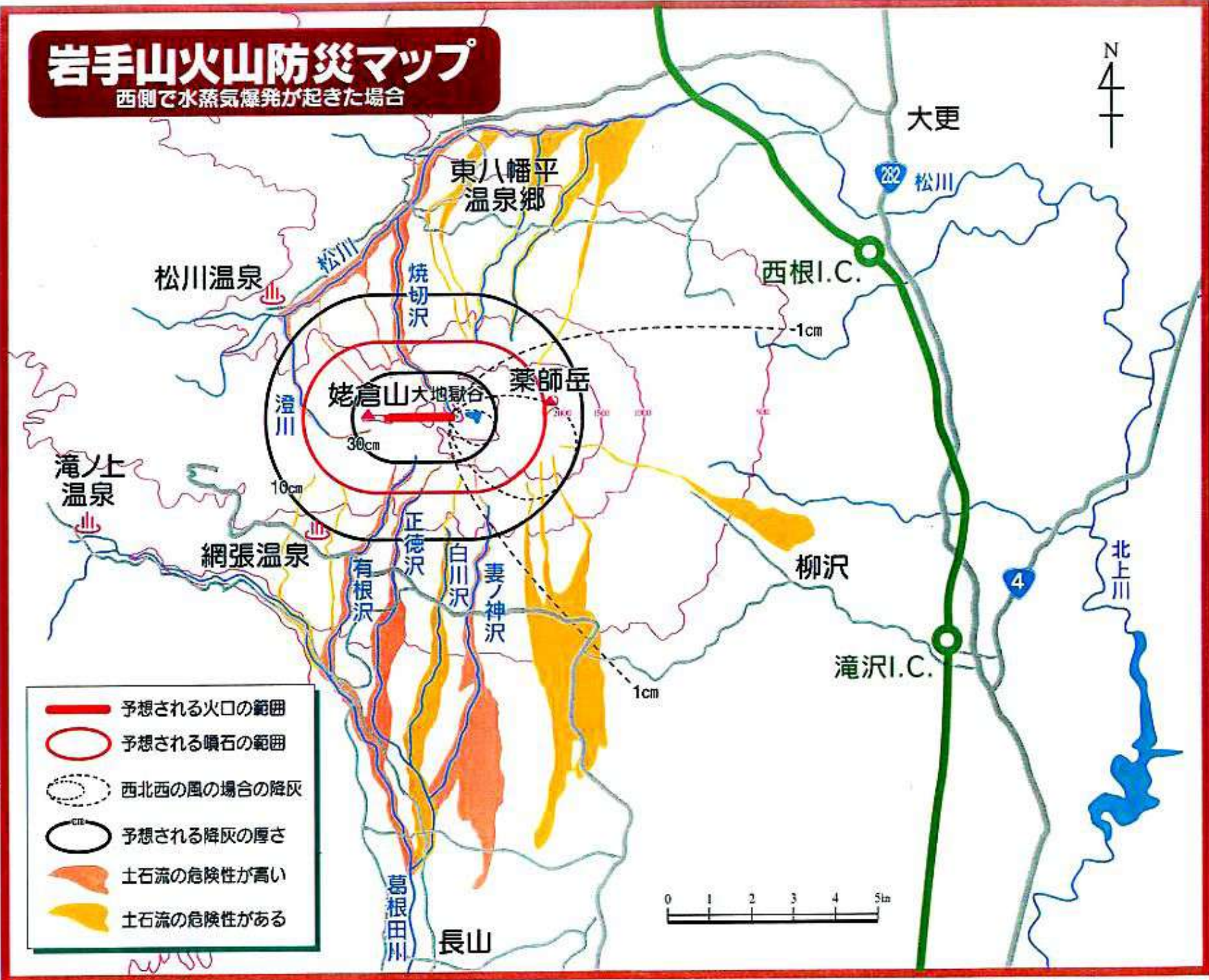


# Baseline Length



# 岩手山火山防災マップ

西側で水蒸気爆発が起きた場合





岩手山の上空では、年間を通して西寄りの風(偏西風)が吹いています。

# 岩手山が噴火すると...

## 火山石

火山石は火山から噴き上げられた高温の岩片は、火山口の周辺に落下します。火山石に当たると、生物は死傷し、建物は破壊され、また、山林の火災にも影響が与えられます。

## 火砕流

火砕流は高温の噴出物が気流などを高速で流れる現象です。低地で流れると、高熱で破壊力が大きいので、全ての建物、動植物に壊滅的な被害を与える恐れがあります。

## 火砕サージ(爆風)

火砕サージは土砂並みの爆風で、小高い丘の上にもはい上がってきます。高熱で焼死し、樹木や家屋をなぎ倒す危険な現象です。

## 積雪による火山泥流

積雪時に火砕流が発生すると雪が溶けて、火山泥流が発生することがあります。火山泥流は流下途中の雪や土砂を取り込み、下流側に広範囲に氾濫します。

## 溶岩流

溶岩流が到達すると、田畑・家屋などの被害は、焼かれ、また重い岩石の下に埋没されてしまいます。

## 火山灰などの降下

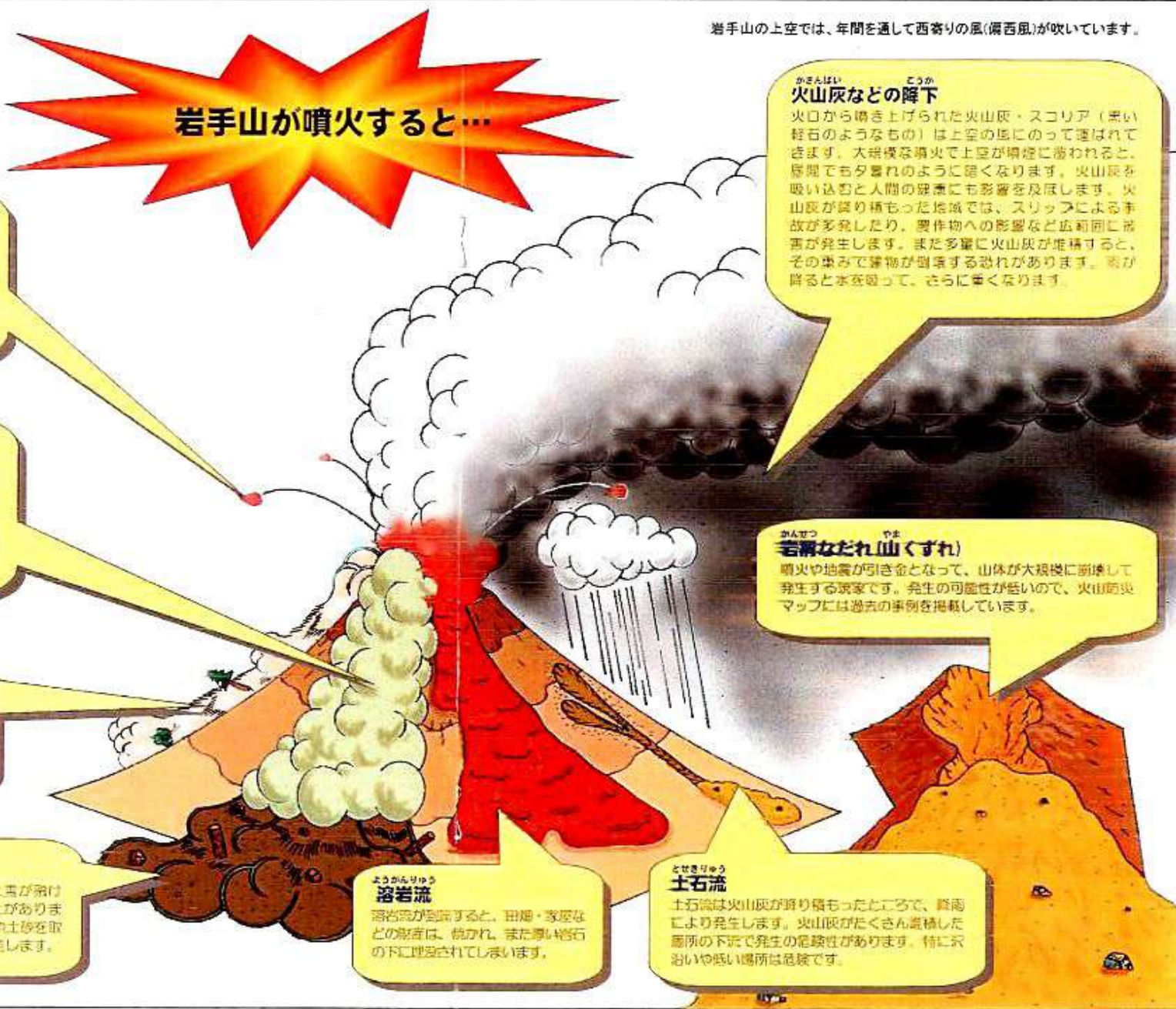
火山口から噴き上げられた火山灰・スコリア(黒い軽石のようなもの)は上空の風にのって運ばれてきます。大規模な噴火で上空が噴煙に覆われると、昼間でも夕暮れのように暗くなります。火山灰を吸い込むと人間の健康にも影響を及ぼします。火山灰が降り積もった地域では、スリップによる事故が多発したり、農作物への影響など広範囲に被害が発生します。また多量に火山灰が堆積すると、その重みで建物が倒壊する恐れがあります。雨が降ると水を含んで、さらに重くなります。

## 岩崩など(山くずれ)

噴火や地震が引き金となって、山体が大規模に崩壊して発生する現象です。発生の可能性が高いので、火山防災マップには過去の事例を掲載しています。

## 土石流

土石流は火山灰が降り積もったところで、降雨により発生します。火山灰がたくさん堆積した場所の下流で発生する危険性があります。特に沢沿いや低い場所は危険です。



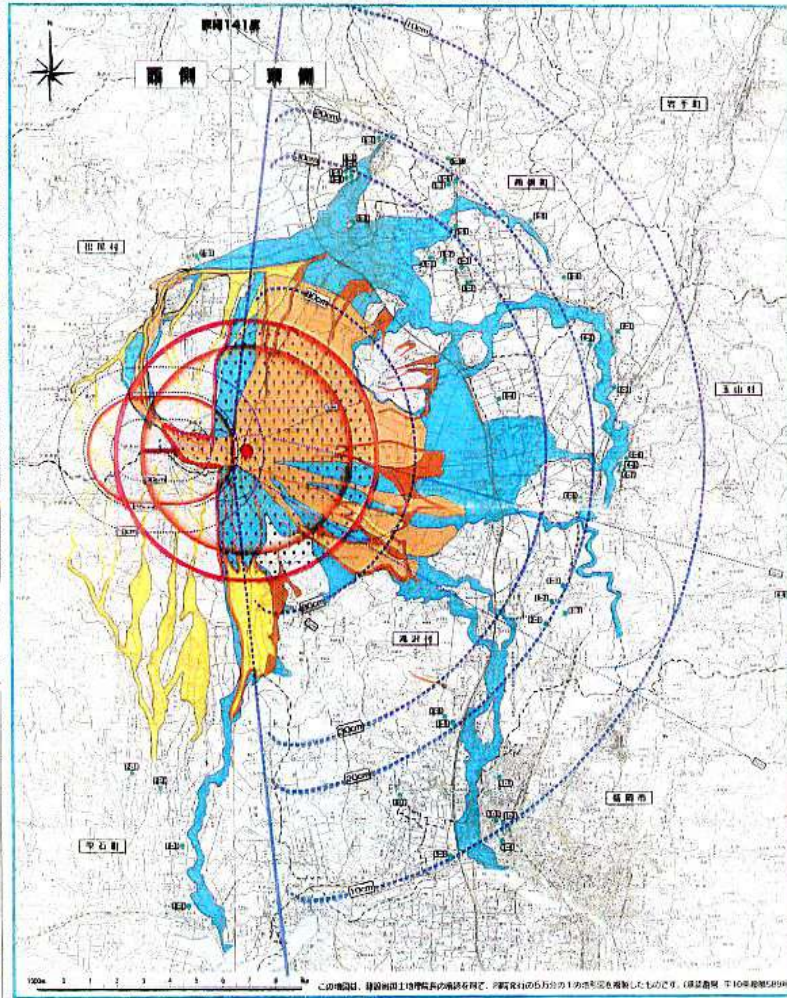


# 岩手山火山防災マップ

〈西側で水蒸気爆発、東側でマグマ噴火が起きた場合〉

このマップは岩手山の過去の噴火に関する調査をもとに作成したものです。今後岩手山で想定される噴火について多くの方に知っていただき、一般家庭や観光施設をはじめ、関係機関での防災に役立てていただくことを目的としています。西側では約3,200年前の水蒸気爆発、東側では1686年のマグマ噴火と同じ規模の噴火が発生した場合を想定して、災害予想区域を表示しています。ただし、実際の噴火ではこの図と異なる場合もありますので、噴火の状況に即した対応が必要となります。

種別	施設名称	住所	電話番号
県庁	岩手県庁	岩手県庁本庁舎	019-651-4141
	岩手県庁	岩手県庁第二本庁舎	019-651-4142
	岩手県庁	岩手県庁第三本庁舎	019-651-4143
市庁	盛岡市庁	盛岡市庁本庁舎	019-837-2543
	盛岡市庁	盛岡市庁第二本庁舎	019-837-2544
	盛岡市庁	盛岡市庁第三本庁舎	019-837-2545
	盛岡市庁	盛岡市庁第四本庁舎	019-837-2546
	盛岡市庁	盛岡市庁第五本庁舎	019-837-2547
町庁	大館町庁	大館町庁本庁舎	019-647-4141
	大館町庁	大館町庁第二本庁舎	019-647-4142
	大館町庁	大館町庁第三本庁舎	019-647-4143
	大館町庁	大館町庁第四本庁舎	019-647-4144
	大館町庁	大館町庁第五本庁舎	019-647-4145
郡庁	花巻市庁	花巻市庁本庁舎	019-622-2111
	花巻市庁	花巻市庁第二本庁舎	019-622-2112
	花巻市庁	花巻市庁第三本庁舎	019-622-2113
	花巻市庁	花巻市庁第四本庁舎	019-622-2114
	花巻市庁	花巻市庁第五本庁舎	019-622-2115
支庁庁	奥州支庁庁	奥州支庁庁本庁舎	019-622-2111
	奥州支庁庁	奥州支庁庁第二本庁舎	019-622-2112
	奥州支庁庁	奥州支庁庁第三本庁舎	019-622-2113
	奥州支庁庁	奥州支庁庁第四本庁舎	019-622-2114
	奥州支庁庁	奥州支庁庁第五本庁舎	019-622-2115



**噴火に備えて**  
 岩手山の噴火は、1686年と約3,200年前に大規模な噴火が起きており、噴火の規模や噴火の方向は、この図と異なる場合があります。

**おが家の避難場所は**

● 噴火はこのような方向に発生し、山から下りてきます



**防災マップの問い合わせ先**  
 岩手県防災センター  
 〒980-0801 盛岡市大町1-1-1  
 電話 019-651-4141  
 受付時間 午前9時～午後5時

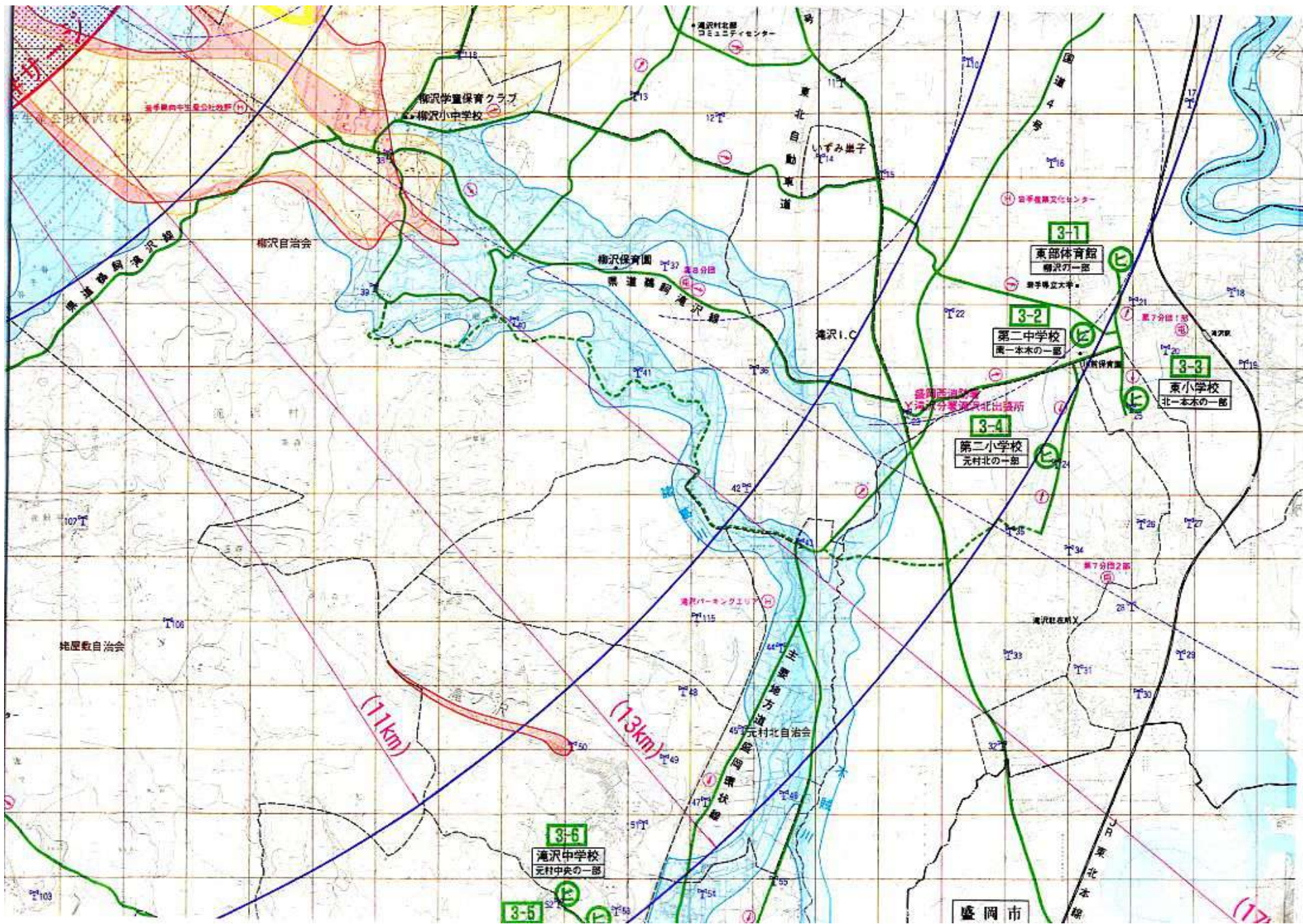
噴火場所	噴火口	噴火	噴火	噴火	噴火	噴火	噴火
噴火	噴火	噴火	噴火	噴火	噴火	噴火	噴火
噴火	噴火	噴火	噴火	噴火	噴火	噴火	噴火

● 噴火：噴火発生時、避難する方向は異なります。図に示したすべての危険区域に避難するわけではありません。











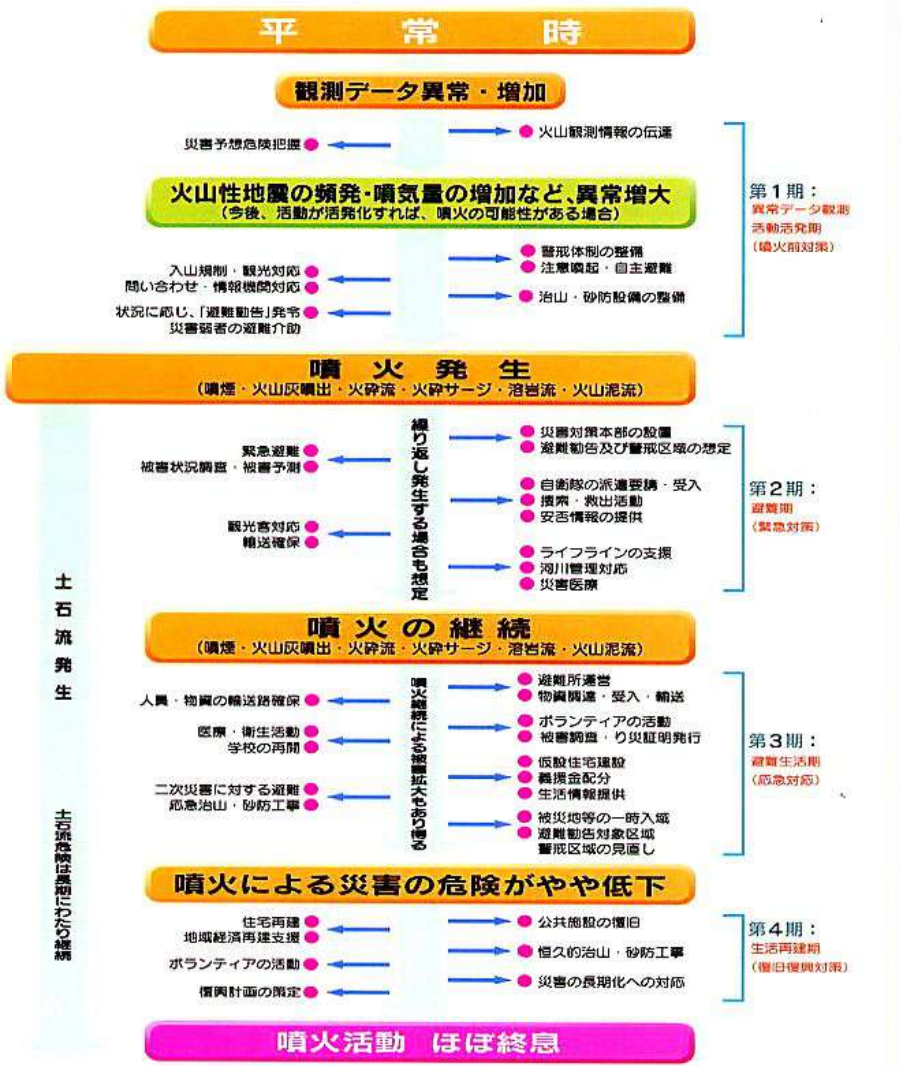
# 2

## 岩手山の防災対策

### いま、なにをすべきか、防災対策を考えています。

建設省、県、市町村においては、岩手山火山防災ガイドラインを作成しています。  
 ガイドラインでは、「岩手山の火山活動と防災対応の仮想シナリオ」を策定し、「異常データ観測・活動活発期」、「避難期」、「避難生活期」、「生活再建期」ごとに、行政、学識者、防災関係機関が何をなすべきか役割分担を明確にし、それぞれの対応計画を策定するための指針を定めています。

#### 岩手山の火山活動と防災対応の仮想シナリオ(案)

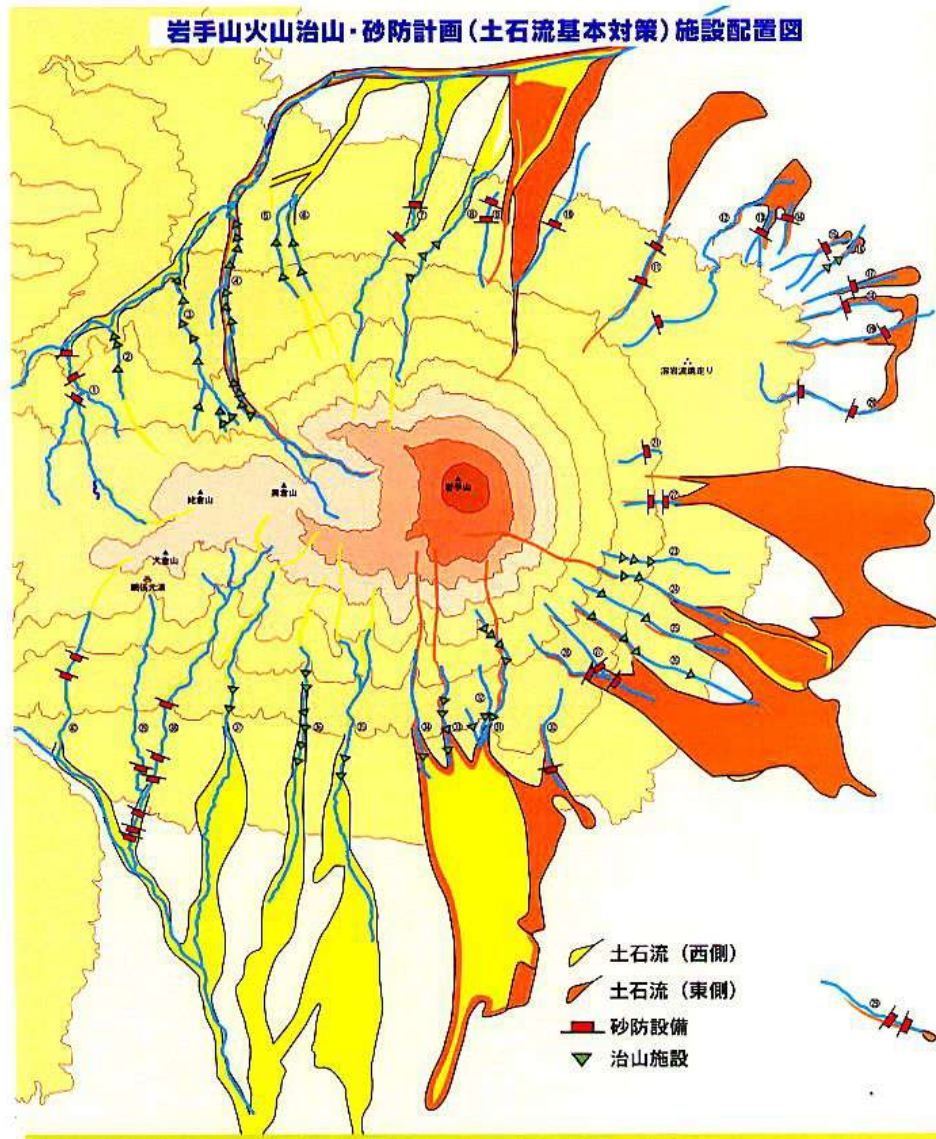


### 火山噴火後の土砂災害防止のため、砂防設備等の整備が重要です。

建設省においては、噴火後の土砂災害防止のため、岩手山火山砂防計画を策定しました。100年に一度の大雨の際に発生すると予想される土石流の対策(基本対策)を進めます。

また、いざ岩手山が噴火し、立ち入り禁止区域が設定され、山腹斜面での対策が困難になった際には、下流扇状地において無人化施工技術等を活用するなどし、導流堤、遊砂地を整備する計画(緊急対策)としています。

岩手山火山治山・砂防計画(土石流基本対策)施設配置図







齋藤徳美岩手大工学部教授④から岩手山の火山活動について説明を受ける住民

# 冷静にマップ活用を

聖石・岩手山講演会で齋藤教授 150人の住民に強調

聖石町の上長山小PTA（小松郁人会長）など主催の岩手山講演会は二十七日夜、同町長山の西山地区構造改善センターで開かれ、火山活動が活発な岩手山西側のハザードマップ（災害予測区域図）作製に取り組んだ齋藤徳美岩手大工学部教授と岩手山火山災害対策検討委員会委員長が現状について説明した。

住民約五百十人が参加。岩手山西側の火山活動について齋藤教授は「今は地下の浅いところにある水蒸気がいつ爆発してもおかしくないという状況だが、マグマはまだ地表近くまで上昇していない」と述べた。

齋藤教授は災害予想範囲を示したハザードマップについて「火山灰の降灰や土石流がすべての範囲で起きるわけではなく、風向きや雨などの条件が重なったときに限られる。パニックになるようなものでない」と冷静な活用を求めた。

会場からは「水蒸気爆発で大きな地震が起きるのか」「学校に通う子どもたちはどう行動すればいいのか」といった質問が出た。齋藤教授は「エネルギーが水蒸気爆発で解放されれば地震は小さく、家がつぶれるような被害はないだろう」と答えた。

同町長山の農業村上正吉

んたのは「いろいろたつわさやデマが飛び交いやすいが、万が一のときは慌てずに行動したい」と気を引き締めていた。

## 伊豆大島で連続地震

二十八日未明、伊豆大島の大島町差木地で小さい地震が計三回あった。気象庁の観測によると、震源地はいずれも伊豆大島近海で、津波の心配はないという。

地震があったのは午前二時三十八分ごろと午前四時一分ごろ、午前五時六分ごろで、午前四時一分ごろの地震が震度2、そのほかは震度1。































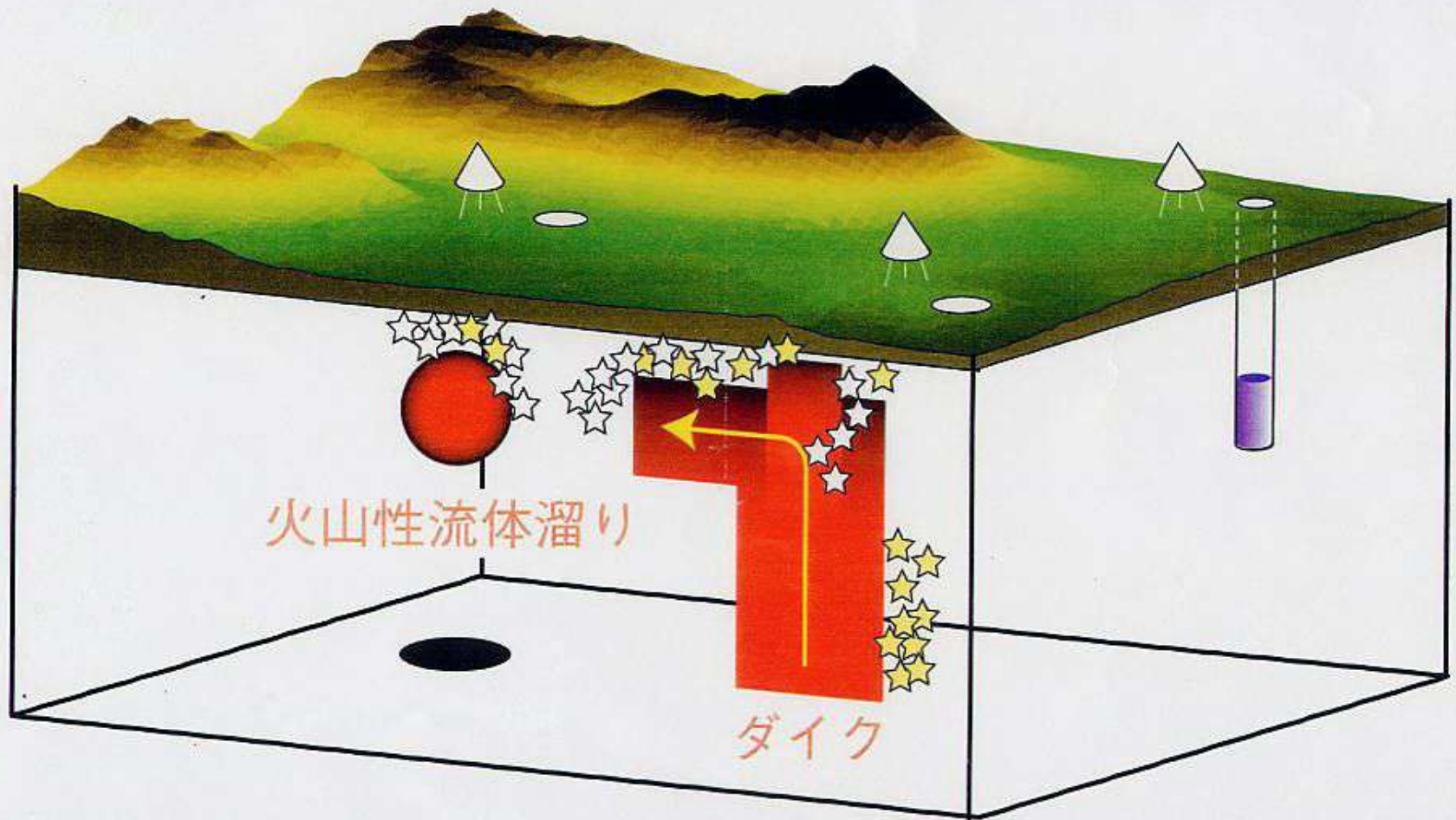








# 1998～1999年岩手火山の活動





# 岩手ネットワークシステム（INS） 岩手山火山防災検討会

大学、行政・防災機関、民間企業、報道  
機関など、約50機関の個人

土曜日の午後、岩手大学工学部食堂（交  
流会付）、顔が見える連携、58回開催



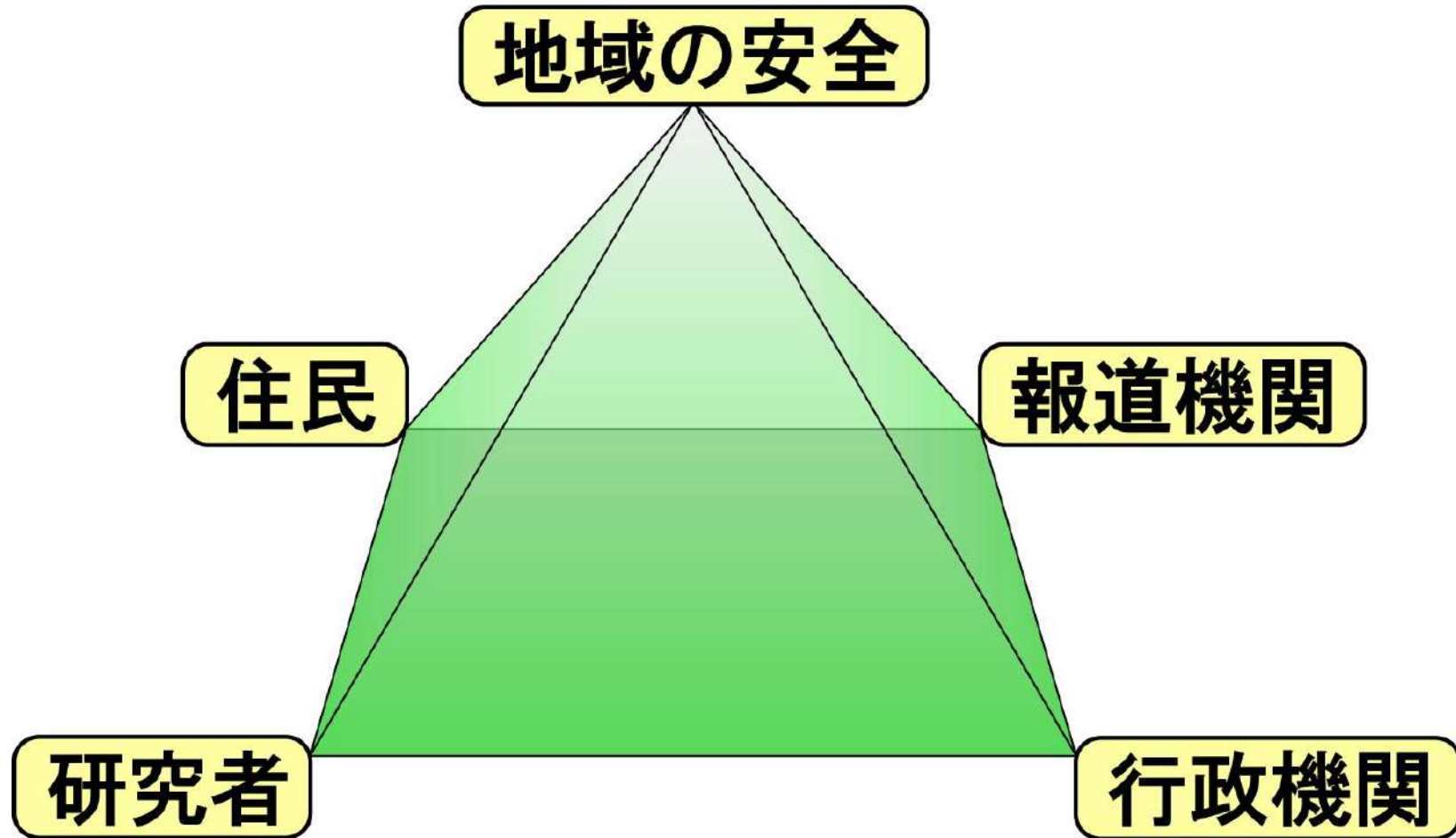
# INS岩手山火山防災検討会 参加者の所属機関

(機関名称変更あり)

- 「学」 東北大学理学研究科地震・噴火予知研究観測センター、  
岩手大学工学部・農学部・教育学部、岩手県立大学看護学部
- 「官」 国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所・国土地理院東北測量部・  
盛岡地方気象台  
盛岡森林管理署、環境省東北地区自然保護事務所  
陸上自衛隊岩手駐屯地、岩手県警察本部  
岩手県総務部総合防災室・県土整備部砂防課・商工観光労働部観光課・  
環境生活部自然保護課  
盛岡市、雫石町、滝沢村、西根町、玉山村、松尾村  
盛岡地区広域行政事務組合消防本部
- 「ライフライン」 日本道路公団盛岡管理事務所、東日本旅客鉄道（株）盛岡  
支社、東日本電信電話（株）岩手支店、東北電力（株）岩手支店
- 「報道機関」 NHK盛岡放送局、IBC岩手放送、テレビ岩手、岩手めんこいテレビ、  
岩手朝日テレビ、岩手日報社、盛岡タイムス、各全国紙盛岡支局
- 「防災・情報関係企業、他」 企業各社、岩手県山岳協会、滝沢村山岳協会、全労済  
岩手県本部、岩手県農業共済連合会、岩手県観光協会、



# 減災の四角錐





















# 住民の安全、命を救うために

どの時点で・誰(どの機関)が  
どのような判断をして・どのような対応を

## 火山活動に関する学術情報

↓ 火山噴火予知連絡会(気象庁長官の  
私的な諮問機関)  
変換 気象庁(気象業務法13条～予報,  
↓ 警報の義務から地震・火山を除く)

## 避難の勧告・指示の権限(義務)～市町村の首長



# 岩手山火山防災ガイドライン

県は必要に応じて【岩手山の火山活動に関する検討会】から火山活動の現状に関する学術的助言を受け、警戒本部長(知事)を中心に協議・判断し、市町村長に避難の勧告に関して助言

## 学術的判断→防災実務判断

岩手山の火山活動に関する検討会(学術的助言) 連帯して、  
岩手県知事(防災助言)市町村長(法的責任) 連帯責任



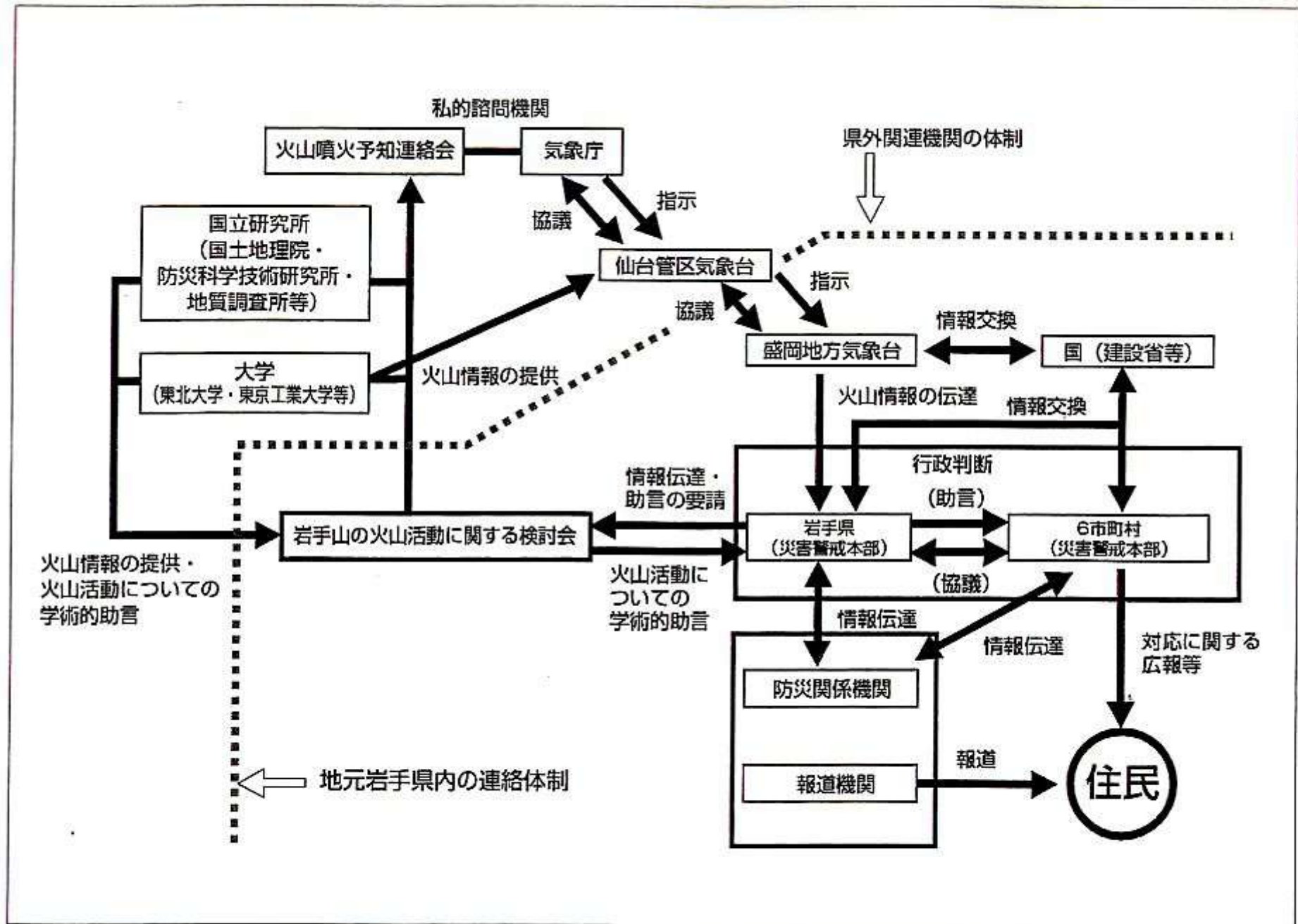


図1 岩手山の火山活動に関する情報連絡体制図

火山活動情報に関しては地元では「岩手山の火山活動に関する検討会」が鍵をにぎる体制となっている。



# 岩手山火山防災ガイドラインの理念

## 基本理念

噴火は防げないが、災害は軽減できる。必要な対策を出  
来るところから実行し、火山と『共生』する『防災先進地』  
を目指す。

## 推進の理念

実務的な対策は、**国** **県** **市町村** が **連帯** して責任を負う

地域の安全は、**行政・防災関連機関** **研究者** **住民** が

**連携** して、それぞれの役割を遂行することにより守られる。

# 火山災害に関する研究者と報道機関の不一致

## 【研究者】

見解が間違っ引用  
条件付を結論のみにすり替え  
すべて白黒にしたがる  
自分の論点に固執  
見解の相違を強調  
知識不足で何を聞くべきかすら  
認識がない  
研究者の仕事の邪魔

## 【報道機関】 (宇井他：火山噴火と災害、1997)

説明がわかりにくい  
肝腎の点について説明しない  
単純明快な説明がない  
情報を隠匿  
どの研究者を信ずるべきか  
専門的知識があると過度に期待  
基本的背景を説明してくれない  
時間との戦い仕事を理解せず



**報道機関は、地域防災の大きな柱  
と、位置付け**

**徹底した情報公開による**

**信頼感の醸成**

**報道すべき情報の価値基準を共有**

**「地域の安全」を守るに重要か  
否か？**

**今日の災害より明日の防災**



# 報道機関への基礎知識の講習会

1998, 5, 23	報道機関への岩手山防災セミナー, 岩手大,	30名
98, 6, 19	I B C 岩手放送社内研修会、	50名
98, 7, 10	テレビ岩手社内研修会、	40名
98, 8. 27	中央の報道関係者への地元招待説明会	20名
11, 14	岩手めんこいテレビ社内研修会	30名
1999, 4, 17	「岩手山火山防災セミナー」行政・報道	110名
6, 7	岩手日報社社内研修会	70名
2000, 10, 17	N H K 東北地域火山防災研修会	50名
12, 12	岩手朝日テレビ社内研修会	30名

# 報道機関への事前説明会・情報提供

1998, 10, 8 岩手山火山防災マップ説明会(岩手大)

2000, 4, 17 6市町村火山防災対策図説明会(県政記者クラブ)

2001, 10, 11 マグマ貫入システム研究成果説明会(岩手大)

委員会の公開「岩手山の火山災害対策検討委員会」17回

委員会の事後説明「岩手山の火山活動に関する検討会」32回

機上観測・現地調査後の説明、撮影ビデオ・写真の提供

予知連の地元説明会(予知連の翌日盛岡地方気象台で開催)

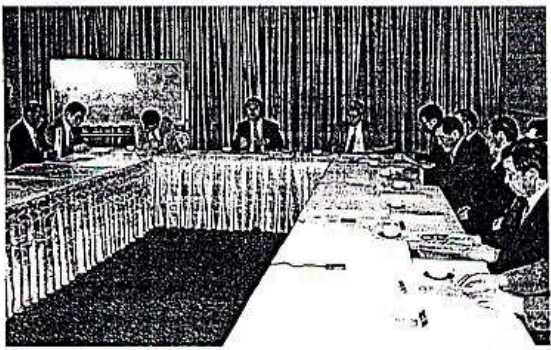
異常事態発生時のテレビ電話会議の一部公開と事後説明

調査・観測状況、岩手山関連行事の記者クラブへの事前説明



# 今月中にも「災害予測図」

## 岩手山火山対策委が初会合



岩手山西側のハザードマップを早急に作ることを決めた第1回岩手山火山災害対策検討委員会

岩手山西側のハザードマップを早急に作ることを決めた第1回岩手山火山災害対策検討委員会。委員は、岩手県庁で開かれた。委員は、岩手県庁で開かれた。委員は、岩手県庁で開かれた。

岩手山西側のハザードマップを早急に作ることを決めた第1回岩手山火山災害対策検討委員会。委員は、岩手県庁で開かれた。委員は、岩手県庁で開かれた。

# 水蒸気爆発や噴火想定

## 避難路などを盛り込む

避難路などを盛り込む。避難路などを盛り込む。避難路などを盛り込む。

六八六一六八七年に水蒸気爆発や火山崩壊、火砕流、噴火、火砕流、火砕流、火砕流。

火山性噴動はなし。火山性噴動はなし。火山性噴動はなし。

避難路などを盛り込む。避難路などを盛り込む。避難路などを盛り込む。

避難路などを盛り込む。避難路などを盛り込む。避難路などを盛り込む。

平和会病院 内科 外科 小児科 産科 泌尿科 皮膚科 消化器科 呼吸器科 循環器科 泌尿器科 眼科 耳鼻科 歯科 皮膚科 整形外科 放射線科 検査科 薬剤科 理学療法科 作業療法科 言語聴覚科 看護科 栄養科 社会福祉科 健康増進科 在宅医療科 がん科 緩和ケア科 救命救急センター







# 予約減の悩み日々

## 業者相談会 岩手山の影響深刻

岩手山の火山活動の影響 岩手九人が訪れ、予約客が懸念される中、宿泊関係者が減っている現状を業者相業者を対面した県商工会 談。火山活動の予約がつかないだけ、本格的な宿泊連合会主催の個別相談会は、二十七日、岩手町の町立中央公民館で始まった。同日、夢を捨てた。二十八日はを中心としたペンション経営者同士の会合で開く。

相談会には、県信用保証協会などの関係者が出席。宿泊業者らが持参した宿泊、売上げ台帳などをとに話し合った。観光客の入り込みが落ちていることや今後、長引いた場合の資金繰りなどが主な内容。岩手町の岩手高原周辺でロッジを経営する千葉健悦さん(56)は「入山禁止となった七月から予約キャンセルが相次いだ。今年から登山客をターゲットに売り込み始めたと言ったが基盤に出た」と語る。

火山性微動はなし  
盛岡地方気象台は二十七日、岩手山の火山観測情報第四十三号を発表した。同日は午後一時現在、火山性微動はなし、噴火の前兆となる火山性微動はなかった。火山性微動は二十五日に一回、二十日、十六日に四回観測した。

岩手山の火山活動が活発化している。日から岩手町の岩手山西側の標高約六〇〇分の観測点と、ふもとの秋田県西仙北町の同約八〇分の観測点の間の高さの変化を調べた。その結果、七月二十六日までの二カ月足らずの間に、岩手町の観測点が約四センチ高くなっていた。国土地理院の調査で、山体が南北方向に最大約四センチ膨らんでいることが分かっていて、同院の今給黎哲郎地震調査官は「山体が南北方向と垂直方向に膨張する形で地殻変動していることが分かった。しかし、垂直方向の変化だけが急激だという訳ではなく、このデータだけで火山活動が危険な状態だと判断するのは難しい」と話している。

### 岩手山(西側標高600分地点)4センチ隆起

#### 国土地理院の調査 「危険性判断できず」

火山活動が活発化している。日から岩手町の岩手山西側の標高約六〇〇分の観測点と、ふもとの秋田県西仙北町の同約八〇分の観測点の間の高さの変化を調べた。その結果、七月二十六日までの二カ月足らずの間に、岩手町の観測点が約四センチ高くなっていた。国土地理院の調査で、山体が南北方向に最大約四センチ膨らんでいることが分かっていて、同院の今給黎哲郎地震調査官は「山体が南北方向と垂直方向に膨張する形で地殻変動していることが分かった。しかし、垂直方向の変化だけが急激だという訳ではなく、このデータだけで火山活動が危険な状態だと判断するのは難しい」と話している。

### 東北、秋田新幹線乱れる

二十七日午後二時三十分、乗客320人に影響  
トランプル  
「東北新幹線」の運行は取りやめ、運送手  
民田沢湖線赤松駅-岩手駅  
定だったやまびこ18号は単  
独で運行された。  
秋田新幹線「まよひ」の運行は、この影響で「まよひ」急  
急しきりが動いた。同「まよひ」が岩手赤松駅を  
列車は五十分後に運転を東北、秋田新幹線上下二本

が区間運休したほか、阿新幹線、田沢湖線の十三本に最大六十五分の遅れが出た。乗客約三千二百人の足が乱れた。  
JR盛岡支社によると、他のシステムに異常は見当たらなかった。緊急ブレーキシステムのトランプルの可能性もあると見て、両秋田運送所で原因を調べる。

99.7.28  
研究機関の  
情報の扱い  
→  
整理の検討  
なし。

すみれホテル 気付 各 藤 徳 美 教 授 殿

fax 011-261-5159

# 観光客回復へPR

盛岡市山手山麓  
岩手県盛岡市山手山麓

## 火山爆発怖くない

### 23日 盛岡でキャンペーン

盛岡市山手山麓の観光・宿泊施設を構成する岩手山麓観光エリア協議会(会長田井井西富)は、休暇村岩手山麓支配人の心を「水蒸気爆発などかきくちなしキャンペーン」を開催、23日に盛岡市岩手山麓の川原野パーク前で一般の安全性をPRする。観光客の減少に悩む各施設が一体となり、火山活動に対する不安や誤解を取り除くべく、火山活動の現状や火山の仕組み、火山の歴史などをわかりやすく説明する。また、火山活動の現状や火山の仕組み、火山の歴史などをわかりやすく説明する。また、火山活動の現状や火山の仕組み、火山の歴史などをわかりやすく説明する。

火山活動の現状や火山の仕組み、火山の歴史などをわかりやすく説明する。また、火山活動の現状や火山の仕組み、火山の歴史などをわかりやすく説明する。

火山活動の現状や火山の仕組み、火山の歴史などをわかりやすく説明する。また、火山活動の現状や火山の仕組み、火山の歴史などをわかりやすく説明する。

火山活動の現状や火山の仕組み、火山の歴史などをわかりやすく説明する。また、火山活動の現状や火山の仕組み、火山の歴史などをわかりやすく説明する。

火山活動の現状や火山の仕組み、火山の歴史などをわかりやすく説明する。また、火山活動の現状や火山の仕組み、火山の歴史などをわかりやすく説明する。

火山活動の現状や火山の仕組み、火山の歴史などをわかりやすく説明する。また、火山活動の現状や火山の仕組み、火山の歴史などをわかりやすく説明する。また、火山活動の現状や火山の仕組み、火山の歴史などをわかりやすく説明する。















盛岡支局 019-623-0021  
盛岡市中央通 1-6-20  
777 019-623-2225  
県内取材網  
北上 0197-64-6131  
一関 0191-23-3426  
古川 0193-62-3133  
釜石 0193-23-1051

購読・配達のご用は  
019-623-3035  
019-623-2900  
019-623-1700  
019-623-6475

白松がモナカ  
白松がヨーカン  
0120-008940

きょうの天気	晴	50%
きょうの気温	最高 20℃	最低 20℃
きょうの湿度	60%	
きょうの風速	北東 10km/h	
きょうの気圧	1013hPa	
きょうの日照	4.4時間	
きょうの降水	0.0mm	

# 役所「縦割り」で 岩手山防災迷走

## データそろわず「待った」

### 砂防の建設費

### 調整断られ「各自で計画」

岩手の治山・砂防計画づくりが「縦割りの行政」のため迷走している。似た機運ながら、建設費が砂防ダム、農水省が治山ダムとそれぞれ別に計画を立てているため、農水省側の計画をめぐって、青森県林局と県は11日、第1回岩手山火山治山計画検討委員会(委員長、村井宏・元岩手大副学長)を開いた。委員から「両方のデータがないと判断がた」と抗議する声が上がった。

治山ダムは国有林などに、砂防ダムは砂防の必要のある場所に設置するが、防災機能があることで、砂防ダムは「砂防の必要のある場所」に設置する方針を示した。だが、三つの次に治山ダムを「三三三施設」を建設する方針を示した。だが、砂防ダムの検討状況はわからない。資料を配って審議を進めたため委員から疑問の声が上がった。

委員会は「砂防治山計画調整」を掲げている。しかし、岩手山火山治山計画は「砂防の必要のある場所」に設置する方針を示した。だが、三つの次に治山ダムを「三三三施設」を建設する方針を示した。だが、砂防ダムの検討状況はわからない。資料を配って審議を進めたため委員から疑問の声が上がった。

### 治山の農水省

### 独自に検討委→委員は抗議

岩手山火山治山計画は「砂防の必要のある場所」に設置する方針を示した。だが、三つの次に治山ダムを「三三三施設」を建設する方針を示した。だが、砂防ダムの検討状況はわからない。資料を配って審議を進めたため委員から疑問の声が上がった。







岩手大学で火山防災への提言を行う  
NHK盛岡放送局の報道記者

岩手大学地域共同  
員教授プロジェクト  
山噴火！岩手山

'00 5 12



大地獄谷を睨むテレビ局の  
監視カメラ





テレビ局の監視カメラ  
がとらえた大地獄  
谷の強い噴気





県政記者クラブから1998年  
ゴールデンクラブ賞を受賞  
岩手県知事と記者クラブ仲間





転勤する全国紙の記者を送る会





# 岩手山の火山防災における報道機関の役割

単に報道のみを行う機関ではなく、減災の一翼を担う  
火山活動状況の防災機関や住民への伝達

岩手山関連ニュースの継続報道、「今日の岩手山」  
火山防災知識の啓発、「特集記事」・「特別番組」  
緊急事態の伝達

防災対応に関する提言～建設的な批判精神の堅持を前提として  
連携、住民の声や他地域での事例紹介、INSへの参加

火山情報の提供～監視カメラの映像を県総合防災室・気象台へ、  
ビデオを岩大へ、中央情報の提供で学者災害・報道災害防止

地域の大学（報道機関）が、地域の安全に寄与できなかつたら、

その【存】【否】を問われる。

みなもとは、人の命を守るとの

**使命感**



# 岩手方式の火山防災

住民を防災の主体に位置づけ  
報道機関との緻密な連携

減災の4角錐体制（研究者・行政機関・  
報道機関・住民が連携して、地域の安全を守る）の実践

# 岩手方式の背景

## 噴火への強い危機感 キーパーソンの存在

浜口博之（東北大教授:当時）火山監視体制の構築  
土井宣夫（民間人:当時）噴火史研究の第一人者  
齋藤徳美（岩手大教授:当時）地域連携ネットの構築

## 地域の安全を守るための共通認識

防災への地域連携が実践されていた



マグマの貫入時 1998年2～4月、8月

岩手山防災は丸腰であった

火山防災マップは同10月9日公表

今回の噴火危機対応の最大の教訓は、

【岩手方式】の火山防災対策の構築ではなく

平時の備えの重要さの再認識

このたびの噴火危機対応の終わりは、次の噴火への備えのスタートでもある。

# 今後の課題～今までも、そして今後も

ガイドラインの理念（連携と連帯責任）

行政機関は、「専門性」と「継続性」の欠如の実態  
賽の河原に石を積むがごとくと指摘する報道も

地元新聞社～担当記者は1～2年で交代

地元テレビ～一部報道記者、キャスターは継続

全国紙～担当記者は1～2年で転勤（他地域の経験者もあり）

本社(中央)と地元(地方)との認識の溝

ノドもと過ぎれば・・・目先の出来事に振り回される日常  
限界か、業かはたまた宿命か



**新しい視点での学究活動**

**「災害情報学会」**

**「減災報道研究会」など**

**実践する“ひと”のネット  
ワークが重要**